

平成29年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 市1

千葉市立千葉高等学校 全日制の課程 普通科・理数科

1 期待する生徒像

—普通科—

高校生活を意欲的に送る意志のある者で、かつ、次のア又またはイのいずれかに該当する生徒。

ア 学習成績が極めて優れており、かつ、入学後も学習に積極的な姿勢で取り組むことができること。

イ スポーツ活動・文化活動・生徒会活動・ボランティア活動等に優れた実績を有し、かつ、本校の学習に十分適応できること。

—理数科—

高校生活を意欲的に送る意志があり、理数分野に強く興味・関心を有し、深く探求する意志がある者で、かつ、次のアまたはイのいずれかに該当する生徒。

ア 学習成績が極めて優れており、かつ、入学後も学習に積極的な姿勢で取り組むことができること。

イ スポーツ活動・文化活動・生徒会活動・ボランティア活動等に優れた実績を有し、かつ、本校の学習に十分適応できること。

2 選抜資料

(1) 学力検査	県下一斉に同一条件で行う5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 小論文	時間50分・字数500字以上600字以内

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。
個々の教科の得点	40点以下の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書 アの数値に、イ及びウについて加点（上限15点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評価2以下の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3か年皆勤である場合は加点する。 各学年15日以上欠席がある場合は審議の対象とする。
ウ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	生徒会活動、部活動等における顕著な実績などについて点数化して加点する。

(3) 小論文 A, B, C の3段階で評価する。評価がBまたはCの場合は審議の対象とする。

評価項目	評価基準
内 容	・資料を正しく読み取っているか。 ・題意に則した内容になっているか。
字数・表記	・決められた字数に収まっているか。 ・文章が完結しているか。 ・指示に従った原稿用紙の使い方をしているか。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

<p>1 次のアからウの条件を全て備える者をA組とし、この者は入学許可候補者として内定する。ただし、理数科の傾斜配点を行わない。</p> <p>ア 調査書中の評定について、算式1で求めた数値によって順位をつけたとき、予定人員の70%以内にあること。ただし、受検者数が予定人員に満たないときは、受検者数の70%以内にあること。</p> <p>イ 学力検査の5教科の得点合計によって順位をつけたとき、予定人員の70%以内にあること。ただし、受検者数が予定人員に満たないときは、受検者数の70%以内にあること。</p> <p>ウ 調査書の記載内容、学力検査の個々の教科の得点及び小論文の結果に、特に問題となる点がないこと。</p> <p>2 A組に属さない者をB組とし、この者については、次のアからウの数値の合計値、及び小論文の結果を資料として、総合的に判定する。ただし、理数科の傾斜配点を行わない。</p> <p>ア 調査書中の評定について、算式1で求めた数値</p> <p>イ 学力検査の5教科の得点合計</p> <p>ウ 調査書の記載内容（点数化された「特別活動の記録」等におけるプラス項目の合計値）</p>
--

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。
--

5 その他

過年度卒業生については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。
